

平成29年度 学校経営計画

1 学校教育目標

自立と社会参加を目指し、明朗かつ協調性豊かで、心身ともに健康な児童生徒を育成する。

2 学校の特徴

本校は県中央部に位置する知的障害を主障害とする児童生徒を対象とする特別支援学校である。小学部から高等部まで 276 名の児童生徒が学んでおり、県内では最も規模が大きい。自閉症（傾向を含む）の児童生徒が半数を超え、さらに、知的障害と他の障害を併せ有する児童生徒も多い。

一人一人の教育的ニーズを的確に把握するためのアセスメントを実施し、個別の指導計画に基づいて個に応じた学習活動を展開するとともに、障害等の特性に応じて学習形態や学習環境を工夫している。また、キャリア発達を促すために社会参加につながる授業づくりを進め、小学部・中学部・高等部における一貫した指導の充実を目指している。

3 学校の現状と課題

- ・ 本校の児童生徒の多くは、通学バスや路線バスを利用して通学しており、毎日の安全な通学は、充実した学校生活を送るとともに、将来の就労を目指す上からも大変重要である。しかしながら、通学バス車内では、離席や騒ぐ等の行動が見られ、児童生徒同士のトラブルにもつながることから、乗車マナーの意識の向上が求められている。また、公共交通機関等の安全な利用は、社会生活の充実を図る上で極めて重要であり、乗車マナーの向上に関する取組を充実することが必要である。
- ・ 近年、情報機器を活用した授業づくりの推進が求められている。とりわけ、知的障害のある児童生徒の学習支援において、タブレット型端末を使用した支援方法は、画面に直接触れ、操作の反応が即座に得られ、繰り返し学習できることから、大変有効であると考えられている。昨年、本校児童生徒の実態に即した学習支援アプリが作成されたことから、その効果的な活用方法についての実践を蓄積し、児童生徒が「分かる、できる」と感じることでできる授業を行う必要がある。
- ・ 寄宿舎では、集団生活の中で、舎生の自立を図るとともに社会生活に適応できる、豊かで健康な心身の育成に努めることを目標としており、「規則正しい生活」、「あいさつ」、「ルールやマナー」、「清潔」の4つを生活目標としている。特に、寄宿舎での「清潔」については、衛生面においても大切なことから、「手洗い指導」を通じて清潔に生活することの意識を高めるとともに、手洗いの習慣化を図りながら基本的な生活習慣の確立を図る必要がある。

4 学校教育計画

項 目		目標・方針及び計画	
1	学習活動	目標	・児童生徒の主体的な学びを促進するため、「分かる・できる」と感じることができる自作教材を中心とした教材整備を行う。
		計画 教務	・教科部会を中心に、自作教材の収集、整理を行う。 ・各教科等の教材ファイルやデジタル教材庫を使用しやすいように整備する。
		目標	・これまで取り組んできた「キャリア発達を促すための授業づくり」の成果と課題を基に、キャリア教育の視点で授業づくりを見直す。
		計画 研修	・前年度の課題を踏まえ、児童生徒に身に付けさせたい具体的な能力「自ら解決する力、自分を見つめ直す力」を育成し、主体的な社会参加につながる授業づくりを行う。 ・合同意見交換会や互見授業などを行い、学部間の連携を図る。
2	学校生活 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">重点 1</div>	目標	・通学バスや路線バスの乗車マナーの向上と定着を図る。
		計画 生指	・ 学部集会やマナーアップ週間を設定し、乗車マナーについて具体的な指導を行う。 ・取組を学校便りやホームページ等に掲載し、保護者の理解と協力を得る。
		目標	・児童生徒の防災への意識を高める。
		計画 生指	・防災の日や避難訓練等の機会を通して、児童生徒に繰り返し防災の大切さを指導する。 ・地震、火災の避難訓練時には、様々な状況を設定するとともに、実際に防災具を身に付けた訓練を実施する。
		目標	・検診・受診に関する指導の充実を図る。
		計画 保健	・学校医と連携を取り、検診・受診の内容や検査方法について児童生徒や保護者に情報を提供する。 ・委員会活動等を通して、検診・受診の内容やマナーを分かりやすく紹介する。
		目標	・食に関する指導の充実を図る。
		計画 保健	・食事に興味・関心をもてるよう、年齢や実態に応じた食に関する指導を行う。 ・委員会活動等を通して、食事マナーアップの啓発活動を行う。
3	進路支援	目標 進路	・児童生徒、保護者、教員に対し、福祉制度や進路希望先についての知識・情報を提供したり、将来の就労生活に必要な力について研修会を実施したりすることで、一人一人に合った進路支援に生かす。
		計画	・関係機関と連携を密にし、進路支援に必要な知識、情報を収集し整理する。 ・進路支援の方針及び福祉制度や進路先等の情報を、懇談会や説明会、手引き等で児童生徒、保護者、教員に提供し解説する。 ・将来の就労生活に必要な力について、小学部や中学部の段階から育成できるよう、保護者を対象とした研修会を実施する。
4	特別活動	目標	・部活動内容の充実を図りながら、他校や障害者スポーツ団体との交流を進めるとともに、卒業後の社会参加の促進や余暇活動の充実を目指す。
		計画 特活	・部活動に主体的に取り組めるように、各部活動の内容を見直したり、新たな内容を考えたりして取り組む。 ・休業日等に、他校との合同練習会や練習試合を実施する。
		目標	・児童生徒の読書環境を整えるとともに読書活動の推進を図る。
		計画 情図	・児童生徒が利用しやすい図書室となるよう、書架や書籍の配置等環境を整える。 ・読書推進活動について、現在の活動を見直したり、新たな活動を考えたりし、図書委員会と連携して取り組む。
		目標	・地域交流活動の内容の充実を図る。
		計画 学部 特活	・地域に本校の教育について情報を発信し、理解と啓発を図る。 ・交流先（校）の理解と共同意識を推進するように活動内容の充実を図る。

5	その他	目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ P T Aの業務内容を工夫し、P T A会員のニーズに合った事業や役員が参加しやすい活動を目指す。 ・ P T Aの事業やP T A連合会等の研修会への参加者の増加を目指すとともに、情報を会員に提供できるよう努める。
		計画 総務	<ul style="list-style-type: none"> ・ 役員の業務内容を見直したり業務の分担を明確にしたりすることで、役員の負担軽減を図り、P T A活動に積極的に参加できるようにする。 ・ P T A事業の「ザ・進路」や「しらとりミーティング」では、保護者の関心の高いテーマで計画を行い、参加を促す。 ・ P T Aの事業やP T A連合会の研修会の報告等をP T A会報や掲示板で会員に知らせ、P T A活動への興味・関心を高める。
		目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員の I C T活用能力の向上を図る。 ・ 個人情報管理の徹底と情報処理技術等の共有を図る。
		計画 情報	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>タブレット型端末の利用の仕方及び有効な利用方法等を共有化する。</u> ・ 個人情報管理上のルールをより分かりやすく提示し、定期的に呼び掛ける。 ・ 個人情報管理リスト作成の意義や方法について全職員に共通理解を図る。 ・ 情報処理技術のマニュアルを新しい機器用に変更したり、有効と思われるマニュアルを追加したりするなど、利用しやすいように整理する。
		目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 寄宿舎の規則正しい生活を通して、基本的な生活習慣を身に付けるための具体的な支援を行う。 ・ 清潔面において、手洗いの定着と清潔なハンカチ携帯の習慣化を図る。
		計画 舎	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一人一人の発達段階や障害の程度に応じた生活目標を設定し、支援の在り方について指導員間で共通理解を図る。 ・ <u>手洗いやハンカチ交換の習慣が身に付くようにツールを使用して指導したり、振り返りを行ったりする。</u> ・ 学部、担任、家庭と連携を図り、一過性とならない効果的で持続性のある生活指導に努める。
		目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童生徒に対する支援体制を整え、ニーズに応じた支援の充実を図る。
		計画 教相	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学年会が改善の困難な事例について校内サポート会議の開催を決めた場合、学年主任と相談しながら参加者を招集したり、日程を調整したりして、開催を支援する。必要に応じて外部の関係機関と連携し、よりよい支援が行えるようにする。（校内支援） ・ 地域の学校のニーズに応じた相談が行えるよう体制を整備し、情報提供する。 ・ 就学・進学相談において相談機能の充実に努め、適切な情報を提供する。（地域支援）
	重点 2		
	重点 3		

5 今年度の重点課題（アクションプラン）

平成29年度 富山県立しらとり支援学校アクションプラン - 1 -	
重点項目	学校生活
重点課題	通学バスや路線バスの乗車マナーの向上と定着
現 状	<p>本校の児童生徒の多くは、通学バスや路線バスを利用して通学しており、毎日の安全な通学は、充実した学校生活や将来の就労生活に必要な不可欠である。</p> <p>昨年度は、シートベルトの着用と静かな乗車を指導するマナーアップ集会を2回、実際のバス内や停留所での指導を1週間行うマナーアップ週間を4回実施したことで、大声で話す友達に注意する児童生徒の姿が見られるなど、乗車マナーの意識向上につながった。また、マナーを守って乗車する児童生徒が増え、車内でのトラブル件数の減少が見られた。</p> <p>そこで、今年度は、児童生徒の毎日の安全な通学につなげるため、乗車マナーの意識が継続するように重点的かつ定期的な取組を実施することで、昨年度の取組で向上した乗車マナーの定着を図っていききたい。</p>
達成目標	<p>実際のバス内や停留所で乗車マナーの指導を行うマナーアップ週間（5日間）やマナーアップデイの定期的な実施</p> <p style="text-align: center;">年間通算20日間</p>
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・5月と9月に生徒指導部が中心となり、通学バスや路線バスでの乗車マナーや乗車前後の停留所でのマナーに関する資料の視聴や実演、クイズを取り入れたマナーアップ集会を計画し開催する。 ・5月、9月、1月の3回、各5日間ずつマナーアップ週間を計画し実施する。 ・マナーアップ週間を実施しない月に、1日ずつ同様の取組を行うマナーアップデイを設定する。 ・マナーアップ週間・マナーアップデイには、下校時の実際の通学バス内でシートベルトの着用と静かな乗車についての指導を行う。路線バスでは、下校時に実際の停留所で車内や停留所でのマナーについて指導を行う。 ・マナーアップ週間後に、通学バスは優秀バスコース、路線バスは優秀生徒を校内放送で発表する。結果ポスターを児童生徒玄関に掲示し、マナーアップの意欲が高まるようにする。 ・集会やマナーアップ週間の取組を学校（学年）便りやホームページ等で保護者へ周知し、保護者の理解と協力を得る。

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

平成29年度 富山県立しらとり支援学校アクションプラン - 2 -					
重点項目	その他（情報活用）				
重点課題	教員のICT活用能力の向上を図る				
現 状	<p>タブレット型端末は、知的障害のある児童生徒の学習支援において、画面を直接触れて操作できることや操作による反応が即時に得られること、繰り返し操作でき理解につながりやすいこと、視覚的に魅力的な画面が意欲の向上につながることなどの効果があり、大変有用であると考えられる。</p> <p>昨年度は、タブレット型端末を利用したことがないという教職員を対象とした講習会の開催や学習アプリの紹介などの研修会を実施したことにより、タブレット型端末を活用した授業を実践してみたいという教職員が増えた。また、各学年に1台ずつタブレット型端末を配置したり、Apple TVを12台購入し、ケーブルなしでモニターに常時接続が可能にしたりした。利用しやすい環境のもと、児童生徒の表情や動きを見ながら授業を展開することができるようになり、タブレット型端末の利用が増えた。しかしながら、カメラ機能を使って活動の様子を動画で振り返ったり、パワーポイントとして使ったり、教師が指導の場面で利用することが多い。</p> <p>富山高等専門学校との連携により、本校児童生徒の実態に即した学習支援アプリが作成されたが、活用が広まっていない。児童生徒の実態に即した学習支援アプリを利用しやすい環境の設定と、より有効な学習支援アプリの開発を行うことが必要である。効果的な活用方法について実践を蓄積し、児童生徒が「分かる・できる」と感じるができる授業を行い、今後積極的に活用し、児童生徒の生活の質を高めることにもつなげていきたい。</p>				
達成目標	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>情報機器の有効活用に関する研修会（中級）の実施</td> <td>学習支援アプリを利用したタブレット型端末を活用した授業の実践</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">年間2回以上</td> <td style="text-align: center;">全学部で6事例以上</td> </tr> </table>	情報機器の有効活用に関する研修会（中級）の実施	学習支援アプリを利用したタブレット型端末を活用した授業の実践	年間2回以上	全学部で6事例以上
情報機器の有効活用に関する研修会（中級）の実施	学習支援アプリを利用したタブレット型端末を活用した授業の実践				
年間2回以上	全学部で6事例以上				
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT活用のスキルを高めるために、校内で研修会を開催し、多くの教職員が参加できるようにする。 ・校外のタブレット型端末活用の研修会に参加し、校内で伝達する。 ・児童生徒の実態に合った学習支援アプリを紹介し、学習分野やねらいに合った授業の実践を共有する。 				

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

重点項目	その他（寄宿舎の生活指導）	
重点課題	手洗いの定着	
現 状	<p>寄宿舎では基本的な生活習慣の育成を目指し、健康で安全な生活態度を養うために「規則正しい生活をしよう」「あいさつをしよう」「ルールやマナーを守ろう」「清潔にしよう」の4つの生活目標を立てて、一人一人に応じた支援を行っている。その中でも特に一昨年度から「手洗いの指導」に重点を置いて取り組んでいる。昨年度までは、手洗いの仕方を身に付けるための支援ツールや環境の見直し、舎生が振り返りをする場面を設定したことで、手洗いの意識付けを図ることができた。</p> <p>しかし、毎年入舎する生徒が変わることから、継続的な指導の成果が積み上げにくい。また、通年入舎する舎生よりも学期ごとや月単位で入舎する生徒が約8割と多く、年間を通して生活指導することが難しくなっている。</p> <p>そこで清潔に生活することに対する意識を高めるとともに、手洗いの手順を覚えて習慣化を図ったり、清潔なハンカチを携帯することを毎月の集会や日々の生活の場面で繰り返し指導したりすることにより、基本的習慣の確立を図っていきたいと考えている。</p>	
達成目標	棟会で手の洗い方についての指導	ハンカチ携帯の定着 (清潔なハンカチへの定時交換)
	月1回以上	80%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・棟ごとに実施する集会で、手の洗い方を手順表などの支援ツールを使用し、視覚的に理解しやすいように説明する。 ・帰舎時に、学校で作成した「手洗いの音楽」を寄宿舎で流して自主的に取り組むことができるような機会を週1回設ける。 ・清潔なハンカチへの交換時期を下校時、起床時、登校時に定時化して習慣化するとともに、ハンカチの携帯を確認するようにして定着を図る。 ・ハンカチの携帯に関する取組で、優秀な舎生を棟会で発表し、意識が高まるようにする。 	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)